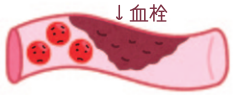
薬剤師が解説！

「骨髄増殖性疾患で使用される薬」について

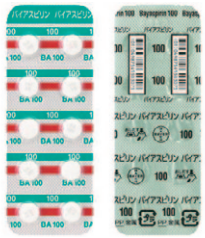
薬剤師
金本 卓

赤血球が増える真性多血症や血小板が増える本態性血小板血症の患者さまは、血液の塊（血栓）が血管に詰まる病態である血栓症が起きやすくなります。血栓症には重篤な疾患として脳梗塞や心筋梗塞などがあり、発症すると命に関わる恐れもあるため、血栓症の発症を予防することが重要です。



血栓が出来て、血液の流れが止まってしまっている血管のイラスト

血栓症の予防目的には血液をサラサラにする効果があるアスピリン（商品名：バイアスピリン）というお薬が使われます。このお薬は自覚症状を改善するわけではありませんが、血栓症予防のために重要なお薬であるため、自己判断で中止せずに、決められた用法・用量を守って服用することが大切です。（また手術を予定している場合、服用を一定の期間お休みする場合がありますので、主治医の指示に従ってください。）



バイアスピリン

副作用としては、出血が起きやすくなることがあります。歯ぐきからの出血、鼻出血、血便、黒色便、血尿、青あざができやすいなどの症状が現れた場合は医師または薬剤師へご相談ください。

血栓症のリスクがさらに高い場合は、アスピリンに加えてヒドロキシカルバミド（商品名：ハイドレア）を一緒に服用します。このお薬は赤血球や白血球、血小板を減らす作用があります。

ハイドレア

服用中にめまい、息切れ、疲れやすい、出血しやすい、皮疹等の症状が現れた際は医師または薬剤師にご相談ください。また、白血球数が下がりすぎると感染症にかかりやすくなりますので、日頃より“うがい手洗い”に心がけてください。

骨髄線維症は骨髄の中で線維が増殖するために正常に血液を作れなくなる疾患です。貧血の他に、脾臓が腫れることによる腹部膨満感、発熱、寝汗、体重減少などの症状が現れます。症状がなく検査値も大きな異常がなければ治療の必要性はありませんが、病状が進行してくると治療が必要になります。最近開発されたルキソリチニブ（商品名：ジャカビ）は、骨髄線維症や真性多血症の原因である異常なタンパク質の働きを抑えます。薬剤の効果として骨髄線維症では脾臓の腫れや自覚症状を改善し、真性多血症では赤血球数、血小板数をコントロールすることができます。

このお薬には飲み合わせに注意が必要なお薬や飲食物がありますので、他の薬を服用している場合や、新たなお薬を開始する場合は医師または薬剤師に相談してください。お薬について何かご不明な点がございましたら、薬剤部までご相談ください。

熊本医療センターのミニ医療情報誌

くす通信

第216号
2019年2月1日

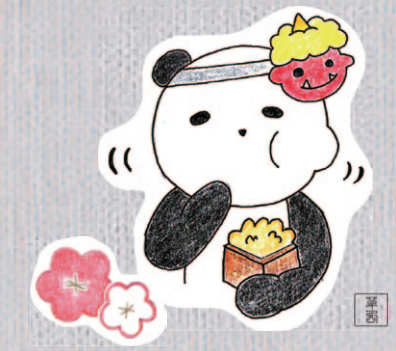
国立病院機構熊本医療センター　発行

血液内科の医長より

「骨髄増殖性疾患」について

薬剤師より

「骨髄増殖性疾患で使用される薬」について



2月

「くす（樟）」の由来について

くす（樟）は常緑の広葉樹で、熊本城内に多く見られます。種々の精油成分を含み、良い香りがします。樟脳をはじめ色々な薬用成分が抽出されるなど有用な薬用樹でもあります。

また、くすし（薬師）とは、医師のことを指し、くすしぶみ（薬師書）は医術に関する書物のことを言います。

本誌はこの「くす」にあやかり、健康な生活を送るために情報を提供しております。お気軽にお読み下さい。

国立病院機構熊本医療センター

- 診療時間　8:30 ～ 17:00
- 受付時間　8:15 ～ 11:00
- 休 診 日　土･日曜日および祝日

〒860-0008 熊本市中央区二の丸 1-5
TEL 096（353）6501（代表）
FAX 096（325）2519
HP http://www.nho-kumamoto.jp

診療科

■総合医療センター	総合診療科、血液内科、腫瘍内科、糖尿病・内分泌内科、呼吸器内科、腎臓内科
■消化器病センター	消化器内科
■心臓血管センター	循環器内科、心臓血管外科
■脳神経センター	脳神経外科、脳神経内科
■感覚器センター	眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科
■画像診断･治療センター	放射線科、放射線治療科
■救命救急センター	救急科

■病理診断科　■外科　■頭頸部外科　■呼吸器外科
■小児外科　■整形外科　■形成外科　■精神科
■リウマチ科　■小児科　■泌尿器科　■産婦人科
■リハビリテーション科　■麻酔科　■歯科口腔外科

血　液　内　科

血液内科は他の内科と違って○○血液内科クリニックなどといった近隣の医院がないのであまり馴染みがないかと思います。

血液は全身を流れるだけあって、血液の病気は急性期には様々な合併症を生じることがあり、当院のような専門のスタッフでの検査・治療が必要になることが多い分野です。しかし、良性疾患・悪性疾患とも手術ではなく投薬で治療を行い、病気が落ち着けば再度かかりつけの先生に定期診察をお願いする事が可能な疾患が多い分野でもあります。

県内唯一の骨髄移植センター
無菌室病棟として、17 床の個室と 4 床部屋 3 つを備えています。

急性白血病・悪性リンパ腫などの悪性疾患も適切な告知を行い、確実な信頼関係のもとで、化学療法（抗がん剤治療）、造血幹細胞移植などを駆使して皆さんに元気になって頂ける様、サポート体制を作っています。

「骨髄増殖性疾患」について

血液内科医長／腫瘍内科医長
化学療法センター長
榮（さかい）　達智（たつのり）

血液の疾患といえば貧血など血液の細胞が少なくなる病気を思い浮かべられるかと思います。今回は逆に血液の細胞が増加してしまう病気の話です。

血液の細胞には大きく分ければ赤血球・白血球・血小板があります。それぞれの細胞の働きを簡単に説明しますと、赤血球は全身への酸素の運搬、白血球は細菌感染から身を守り、血小板はけが等で出血した場合の止血を担当します。これらの細胞は全身の骨の内部（骨髄）で作られますが、この骨髄の細胞が自律的に増殖し、末梢血の細胞が増加する病気を骨髄増殖性疾患といいます。すべての血球が増加する傾向にはありますが、主に増加している血球によりいくつかの病気に分かれます。

血小板

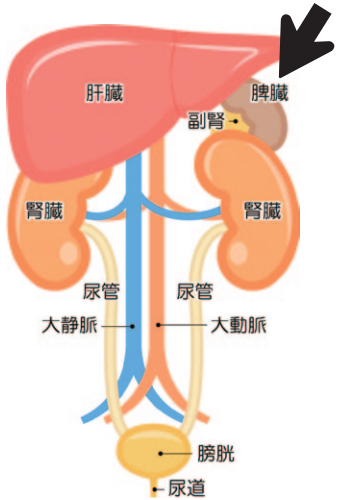
主に**血小板が増加する本態性血小板血症**では血小板の機能異常により血栓症が生じたり、逆に出血症状が主に出現することもあります。

赤血球

赤血球が増える病型は真性多血症と呼ばれます。非常に血色が良くなり'赤ら顔'になったり、共に増加した白血球により放出されるヒスタミンという物質によりかゆみが生じることもあります。

血球ではなく**骨髄中の線維が増殖する骨髄線維症も骨髄増殖性疾患**に属します。また他の病型（真性多血症や本態性血小板血症）から、この骨髄線維症に移行する事もあります。

従来これらの疾患はあまり症状のない方が多いと言われていましたが、よくよく問診すると、脾臓が大きくなったことによる腹部膨満感、微熱、寝汗、体重減少などが多く認められます。軽微な症状であっても毎日のことですから、そのままに放置すると生活の質（quality of life: QOL）が低下します。以前から行われている治療として、血栓症を予防する目的で瀉血（200 ～ 400ml の採血を繰り返す）などがありますが、現在ではこれらの疾患の原因遺伝子（JAK2 など）が発見され、これを標的にした治療も行われています。連日の飲み薬になりますが、微熱、寝汗、体重減少などの自覚症状の改善につながります。またこの疾患は元々長く付き合っていく病気ではありますが、長期的には生存期間の延長が認められたとする報告もあります。



この病気は健康診断で「血液が濃いようです」という指摘で発見されることが多いのですが、すべての人がこの疾患という訳ではありません。例えば、赤血球の増加は各種心肺疾患、喫煙、他の癌（腎癌等で時に見られる赤血球を増やす物質であるエリスロポイエチンを産生する腫瘍）など原因は多岐にわたります。従って一度は血液内科を受診していただき、血液の病気か否かを検査されることをお勧めします。